

最近、熱傷学会という、やけどの専門家が集まる学会からの仕事で、治療のガイドラインを作りました。ガイドラインとは、治療方針の羅針盤のようなものです。以前にも形成外科学会で皮膚腫瘍のガイドラインを作成したことがあります。かなりの時間と労力が必要です。

今回も大変でした。まず、多くの論文を読んで、その中から一般的に行われている治療の方法を選びます。その上で、その方法がどれほど効果があるのかを評価していくのです。当然、一人で決めるのではなく、何人かで考えて原案を出し、学会で議論した上

人間の力

で最終的に出来上がります。現代の医療では、それぞれの専門によっていろいろなガイドラインがあります。形成外科は、頭の前から体、手足の爪まで広い範囲の治療を行っています。けがや傷痕、顔や体の変形、皮膚の腫瘍、手外科、がんの再建外科、レーザー治療など、ガイドラインも多彩です。

ガイドラインがなかった時代には、医師が各自の経験で治療を行っていました。時にはあまり効果がない治療が行

われることもありました。ガイドラインは、このような無駄な治療を防ぐためにも重要です。ただし、「バイブル」ではありません。ガイドラインを作った者としても、一般的なことは書いています。病気はみな同じではなく、人によって異なります。ガイドラインから多少外れた治療が必要なこともあります。

ガイドライン通りの治療であれば、今はやりのAIでも十分ですが、医療ではまだ人間が必要なようです。

一筆



熊本赤十字病院
形成外科部長

黒川 正人

黒川 正人